

みづき

mizuki

大垣女子短期大学通信
Spring 2013 No.30 春

contents

CLOSE UP	1	CLUB ACTIVITIES	6
巻頭言	1	学友会だより	8
さらに躍進を目指す	2	大垣女子短期大学での思い出	10
新生大垣女子短期大学		Information	11
新しい時代に役立つ	3	新聞掲載記事拝見♪	12
看護学科教育の創設に向けて		教員の社会的活動の記録	15
学科だより	4	みづきトピックス	16

CLOSE
UP

第44回みづき祭 テーマ「みづき～Infinity」

平成24年10月27日(土)晴天の空の下「みづき祭」を開催し、約2千人の方にお越し頂きました。また、同窓会主催「第2回ホームカミングデイ」も同時に開催しました。

今回は『大垣市』と『東日本大震災の被災地』との関わり方に焦点をあて、『人と人とのつながりを今一度見つめ直し共感することから、みんなの心を1つにして、『絆』を深めていきたい』という想いで企画されました。みづき祭実行委員は、宮城県気仙沼市を訪れるボランティア活動を行いました。そのとき感じたことを「大垣市元気ハツラツ市」や「みづき祭」において、人形劇で伝えたり、活動の写真や記録の展示をするなど、現地の方々の気持ちを理解することに努めました。



巻頭言

漢字の入った時間表記

漢字は表意文字であり、英語で用いるアルファベットなどとちがって、文字そのものに意味がある。そこから「今年の漢字」という恒例行事も行われ、これは漢字を用いた言葉にそれぞれの人の思い入れがあることも意味している。漢字2文字を組み合わせたわが国の元号を考えてみると、やはりそれぞれの思い入れがある。たとえば「昭和」という文字を見ると、年齢によってさまざまな思いが去来し、それに年代を組み合わせるとさらに具体的な思い出になるにちがいない。

「昭和」の元号名は四書五経の『書經堯典』にある「百姓昭明、協和萬邦」(国民の平和と世界各国の共生繁栄)の一節に由来するが、「昭和」という文字の中には、時代への思い出も数多く埋め込まれている。だから、「昭和50年」というのと「1975年」とキリストの生年に起因した数字だけの西暦でいうのとでは、時間軸上では同じでも、心象風景の豊かさがかなり異なる。これは「明治生まれ」と「1900年頃の生まれ」でも同じであろう。

総合教育センター長 矢田貝 真一

平成になって、わが国のマスメディアは生年やできごとの年などを西暦のみで報道することが多い。政治的主張からわが国の元号をあげて使わない一部の人もいるが、欧米の植民地拡大とともに西暦が普及した事実はともかく、キリスト教国家を中心に世界で最も広く使われる紀年法となり、学術論文でもほぼすべて西暦を用いる約束である。わが国では、年数の計算の利便性や西洋の事物への「何となくオシャレ」的憧れから、西暦を用いる人も見受けられる。

世界に発信する文書なら致し方ないが、自国の日常生活でなら、「東海道新幹線開通」は「1964年」よりも「昭和39年」であり、今年は「平成25年」だから「平成も25年たつのか…」なのである。どの紀年法によるかは私的な部分では自由なのだろうが、「1950年代」という言い方は何とも情緒がないように思われる。115歳まで長生きした暁には、「すごい! 昭和30年代生まれだ!!」と元号で驚いてほしい。

さうに躍進を目指す新生大垣女子短期大学



学長 中野 哲

大垣の地に誕生して44年目にあたる本学は、今春から新しく看護学科を増設し、5学科から成る総合女子短期大学となり充実し、将来に向けて大きく飛躍する年を迎えた。

今から20数年前、本学の20周年を迎えた際、当時の理事長・学長の言葉がある。そのタイトルは「21世紀に向けた飛躍する大学をめざして」で、本学は短期大学ではあるが中身は総合的な大学であると、德育、体育を重視し、生涯学習の重要性を説き、外国の大学との交流を促進することを掲げている。現在、本学は從来から建学の精神に基づいた教育理念を掲げて教育をしているがその精神は從来のものと一貫して変わっていない。

すなわち、学生個々の主体性と自立性を培い、德育を中心に知育・体育のバランスがとれ、専門知識や技能、社会性を身に付け環境と生命を大切にするという教育方針に基づいた教育によって、地域社会へ貢献できる人材養成を行っている。幼稚教育科は早くから3年制度を導入し、医学や芸術などの教育をとり入れるなど、多くのユニークな授業や実習を行い、他の学校ではできない教育を行つてきている。また、デザイン美術科や音楽総合科などの美術系の学科も、その熱血教育により遠隔からの学生を集め多くの人材を育ててきたが、近年は外国からの留学生を引き受けている。歯科衛生科も非常に早い時期から3年制度を導入し、全身医学やリハビリテーションの授業を取り入れ、口腔ケアのスペシャリストとして幅広い教育をするなど、4学科は何れも特色ある総合女子短大として発展してきた。

このようなユニークな教育をしてきた4学科にこの4月から、新しく看護学科が加わることになった。これで教育系、美術系、医療系という多様な学科が揃うことになり、まさに本学は総合女子短期大学として再出発することになった。

こうして5学科学生が、チャーミングキャンパスと名付けられた、クリーンで明るい教育環境のもとで

専門的な知識や技術を習得し、さらに専門性を超えた一般教養を学びつつ、さらには学生間の若者同士の活発な交流を介して、知性と感性を兼ね備えた、「自律性をもつた品性のある女性」となり、地域社会に貢献できる人間に成長してくれることを期待している。

新しい時代に役立つ 看護学科教育の創設に向けて

学長 中野 哲

日本は少子・高齢社会となり、医療環境も著しく変貌してきている。西洋医学を中心とした近代医学の進歩は素晴らしい、それと歩調を合わせるように医療機器もより精度が高いものが開発されできている。このような状況の中で、近年は医療を担当するチームの中では医師と共に中心的な役割を果たす看護師の不足が深刻なものになっており、大垣市をはじめ西濃地方の医療圈も例外ではない。

このような環境下で、開学以来女性のみの高等教育を担当し、44年の星霜を重ねてきた本学に本年4月から5番目の看護学科が増設されることになった。本学には幼稚教育科、音楽総合科、デザイン美術科、歯科衛生科の既存の4学科があるので、単科の看護師教育機関ではできない様々な幅広い知識・技術を持つ看護師教育が可能である。また、本学は女子短期大学であるので、圧倒的に女性が多い職場である看護師の優位性、すなわち、女性の優しさなどの長所を引き出すことが可能であるなど多くのユニークな教育が可能である。

具体的には一般教養の教育もさることながら、「子育て入門」、「音楽療法入門」、「芸術入門」、「歯科衛生概論」や、「女性学」など、総合短期大学であるからこそのカリキュラムが組まれている。こうして女性の優しさを醸成しながら、子育ての知識や、音楽や美術に興味をもち、口腔衛生の知識を持つ、人間性豊かな知性と感性を兼ね備えた看護師教育ができるのである。

一方、実習施設としても県下最大の大垣市民病院をはじめ、多くの医療施設や老人保健施設など西濃圏の医療関連施設が充実しており、看護師の研修教育にも恵まれている。

今や、社会は複雑になり医療環境も大きく様変わりしているので、単に医学知識・技術を獲得するのみではなく満足を与える看護は不可能になつてきている。特に尊い人命を預かる看護師には人間性が求められており、從来よりは幅広い一般教養の習得も必要である。このような時代であるからこそ、本学では専門的な学問以外に様々な教育課程が組まれており、キャンパス内での異なる5学科の学を超えた学生の交流や課外活動、さらには地域社会に貢献するボランティア活動などの積極的参画なども推奨している。

こうして学生諸君は人間性、社会性を身に付け、最終的には本学の建学の精神に基づいた「自律性をもつた品性のある女性」として果立つてくれることを期待している。



～看護学科1号館建設中の様子～



～看護学科1号館建設中の様子～



新聞掲載記事見つけ

新聞に掲載された
本学の記事・本学のスナップ
平成24年3月～平成25年1月



平成24年4月2日 岐阜新聞



平成24年4月2日 岐阜新聞



平成24年4月2日 岐阜新聞



平成24年6月10日 岐阜新聞



平成24年5月22日 岐阜新聞



平成24年4月10日 中日新聞



平成24年4月13日 岐阜新聞



平成24年5月20日 中日新聞



平成24年7月5日 中日新聞



平成24年7月8日 岐阜新聞



平成24年8月17日 中日新聞



平成24年9月26日 岐阜新聞



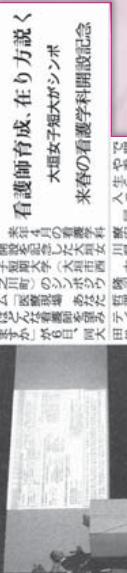
平成24年8月12日 岐阜新聞



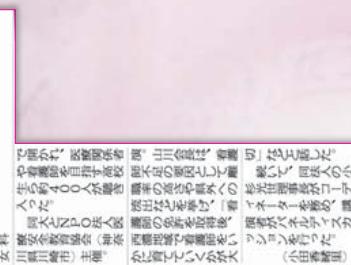
平成24年9月5日 中日新聞



平成24年9月24日 中日新聞



平成24年10月7日 岐阜新聞



（小田香齋画）



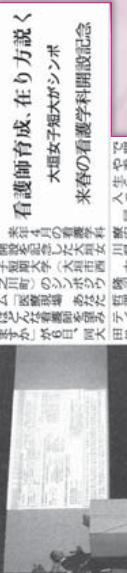
平成24年8月12日 岐阜新聞



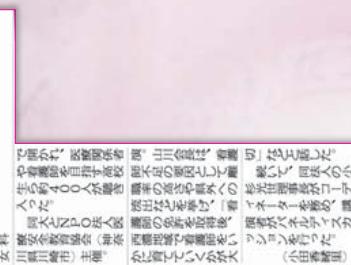
平成24年9月5日 中日新聞



平成24年9月24日 中日新聞



平成24年10月7日 岐阜新聞



（小田香齋画）

みづきトピックス mizuki topics spring 2013

開設4年目を迎えた子育てサロン「ぶつぶあ」

大垣女子短期大学に子育てサロン「ぶつぶあ」が開設され、今年で4年目を迎えました。地域の皆さんに愛され、今までに、延べ3,500組以上の親子に利用していただきました。子育てサロンは、コーディネーターを中心に、地域のボランティア、幼児教育科の学生、教員がスタッフとして加わり、「学びのある居場所づくり」を目指し、取り組んできました。

今年度は、更に学びと内容を充実させるために、第1木曜日と第3木曜日も形を変えて開設しました。第1木曜日は、講座を6回行いました。内容は、食育・子どもの発達・親子遊び・わらべうた・指人形作りなどで、どれも親がお話を聞いている後方で幼児教育科の学生が託児をするという形式でした。少しづつましたが、和気あいあいとした雰囲気で、安心して講話を聞くことができたようです。また、親子一緒に参加するものは、我が子とのスキンシップが十分楽しめたと好評でした。第3木曜日は、学生の企画・運営による取組でした。あるグループが企画した「音あそび」では、様々な楽器に触れた子ども達が、音やリズムの美しさ、不思議さに驚き、満面の笑顔で体ごと表現していました。学生や参加した親子にとってよい体験になりました。しかし、参加者が少なかったことと、運営していくには十分な準備時間、学生の熱意、教員のサポートが必要であることなど、課題も残りました。

25年度は、子育て日本一を目指す大垣市との共催で、後期に4回の講座を予定しています。講師は本学の幼児教育科・音楽総合科・デザイン美術科・歯科衛生科の教員と学生です。もちろん託児は幼児教育科の学生が行います。大垣女子短期大学の子育てサロン「ぶつぶあ」は、これからも地域の親子と共に学び育ち合える居場所を提供していきたいと思っています。



第9回 こども祭

「こどもたちー！ ぜんいんしゅうごーう!!」

1月27日、駐車場には雪が積もっていたにもかかわらず、大勢の地域の親子の皆様にお越しいただきました。幼児教育科の「こども祭委員」の学生を中心にして秋から繰り返し話し合い、企画を練り上げました。3年生は最後の行事となるため、今までの学びの力をすべて出し切りたいと張り切りました。みづきホール、体育館を中心に、エンターナメントホールを会場にして、デザイン美術科の子ども水族館、音楽総合科のサックス演奏、歯科衛生科のフッ素塗布が行われ全学の協力のもと盛大に催されました。また、本学客員教授絵本作家サトシンの「おでて絵本」の読み聞かせがあり大勢の親子が楽しました。



大垣女子短期大学 〒503-8554 岐阜県大垣市西之川町1-109 TEL. (0584) 81-6811 (代) FAX. (0584) 81-6818 <http://www.ogaki-tandai.ac.jp>
【学科構成】幼児教育科・デザイン美術科・音楽総合科・歯科衛生科



マスコットキャラクター
みづきー

◆(財)短期大学基準
協会による第三者評
価が始まった初年度
の平成17年度、全
ての評価領域において
「適格」認定。



◆平成19年度、全
ての校舎、耐震補
強完了。

◆平成14年度から
学内外全面禁煙。

平成20年度 文部科学省 教育GP
◆大垣女子短期大
学の教育活動が平
成20年度文部科学
省選定の「質の高い
大学教育推進プロ
グラム(教育GP)」に
選ばれました。

大垣女子短期大学通信
みづき 2013 春号
No.30
発行日 / 平成25年3月1日
編集 / 広報委員会
発行 / 大垣女子短期大学
E-mail toshio@ogaki-tandai.ac.jp